新春特集

走る馬　馬年生れ

もろの事柄は、努力をして解決するのは当然であり、社会人の務めであります。此の当然である日常の中に心の暖かさが少しほしいと思うのであります。

私の社会、私の生計に就いてもそれなりの不満もあるが自分を治するには心の豊かさ暖かさを持つ事に務めたいと思います。

六十の駄馬がマセにアゴを掛けて想う一言。

馬年生まれの一言

小杉　鍋坂　上　惣　一

大正7年生まれ

年々歳々繰返し、生れて六十年を想う時、誠にめまぐるしい時代でした。

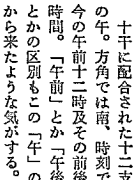
記憶の中には御大典、満洲事変、大東亜戦争、今また石油ショック以来の経済の動揺と生産問題、何時になったら我々民衆の落着いた生活が出来るかと思う時、新年を喜ぶ気持に陰を感ずる時があります。然し不平や不満は、神仏でない限り誰もが心の片隅に持つのが心理と思います。

そこで、陰のある社会を明るくする事をお互いに考えなければならないと思うのですが、これは只一語暖かい想いやりの心と思います。

此の表現によってそれぞれの心の落着と豊かさを得、品位を保つ事が出来ます。もろへこたれることなく、馬鹿も休み休みと、馬耳東風ならずで、馬に食わせる程の歳をとっても張りを持って生きたいものであります。

午年によせて

沢海　伊藤吉作



大正7年生まれ

午年生れの者が表題のような事をと言われても、私如き者にちょいと書けるはずがないのであるが、何時の間にか還暦を迎える程の歳になってしまった。老化防止に勉強するよう指示されたものと思い私なりに筆をとりました。

十干に配合された十二支中の午。方角では南、時刻では今の午前十二時及その前後二時間。「午前」とか「午後」とかの区別もこの「午」の刻から来たような気がする。

午年。一見して飛躍する年又方角からして「南」だから明るいといわれる。

午年びいきでいうと、動物の馬は昔戦場で活躍して、戦争にはなくてはならないものとして「馬印」などとも言われたり、馬を牛より愛するものが多いと、やはりよい方は馬で交通の便になると何より大切にされたものであった。

昔は重宝がられたものの、今はその影たるやで、文明の利器に押されて哀れなものとなったが、それでも十二年に一回づゝ廻る。これを一つの契機として人の一生を送る事も結構なことである。善い事ばかりではないので、決して

未来をすばらしい日本に

横越(川)　和田竹氏

昭和5年生まれ

新年明けましてお目出度うございます。馬年の昭和五年三月十日陸軍記念日の朝小生此の世に生を受けて四十七年と十ヵ月の歳月が過ぎ去った春には路傍の草や木々にも新芽がふくらむ。又暑い夏が過ぎて秋ともなれば、木の葉は枯れて舞落ちる。そして冬が来て野も山も銀色の世界に変る。このくり返しで今年は我等の馬年である。人間に与えられた色々の問題を背負って、はてしなき人生の道を歩き続けて今日に至るが、小生何等の取柄もなく生活に追われ、たゞ黙々と仕事に励む事で精一杯。趣味も多くあるけど仲々暇がないと云ったような具合だったが、これから先はちょっぴり違う様な気もする。又今年は小生の年でもある故に趣味の内から一つを選び大いに研究して見たいと思って居る次第。何はともあれ学生当時の勉強嫌いがたゝって居り何をやるにも、困難だが今更どうにもならん。兎に角にも頭張るつもりだ。いづれにせよ人間として生きる喜びを考えなければいけない

戦後早くも三十二年日本は本当に素晴らしい進歩であったが、次に廻って来る馬年には小生六十才となる。それ迄は生きたいものである。十二年後の我等の国は、現在より以上な素晴らしい社会である事を信じて。

何事もやる気になってやればできる

二本木　谷井篤光

昭和5年生まれ

新年おめでとうございます新春を迎え背様におかれましても、今年こそは最良の年としたいと色々構想をおもちのことと思います。

私の人生をふり返ってみますと、昭和十九年に義勇軍として十四才の春満洲に渡り、厳しく鍛えられたことが今でも昨日のように思われます。

終戦、戦後と目まぐるしく変る激動の時代で、円高、経済不況等で前途多難な新年を迎えましたが、経済危機突破をキャッチフレーズとした福田改造内閣に、日本経済の不況脱出を切に期待しております。本村においては、新潟市の近郊という好条件に恵れ、各種企業、団地の進出等で、急速な発展をとげ、目を見張るようであります。

私も四回目の馬年を迎えて「何事も、やる気になってやれば出来る。」という不屈の精神で、二度とやってこない昭和五十三年が思い残すことのない飛躍の年となるよう、最大の努力をしてゆきたいと思います。

初春に

沢海　米山征四郎

昭和17年生まれ

一九七八年初春を御慶び致します。海外において円高、国内に経済の不安、減反目標の大幅なアップ等々誠に身を引締めさす感の本年かと想います。阿賀の辺りで春に種子を落し、夏に一心に汗と太陽に身を焦れ秋に望を託す、年一サイクルのこれを私の現業としています。幾つかの仕事に携った短い青春のそれから見ると長所有り短所有りで「気の長い」仕事の感も有る。

しかし最近の農業は、米作においては在庫を少くする為作りにくいが、美味良質のコシヒカリを目指し、私の地区の野菜では長芋の大量生産に規格と品質の向上を志し、午ボーに里芋にと工業製品のそれのような努力が求められる中にはキャベツ、白菜のように甚だ同然の時も有る。又他産地との競争も厳しい。そこに青年が自分もやろう、やって見ると志され、子供には親の仕事に魅力を感じてもらえるように、この道拾数年、思い願っております。大河に里を知る。無才ですが種々の社会の中に何かを求められる事の出来る、人生の年代を意識しつつ新年を迎えさせて戴きました。

ゆとりのある生活を

二本木　阿達信二

昭和17年生まれ

新年明けましておめでとうございます。誰でも年の始めには今年こそは！と思って新年をむかえると思います。しかし私は日々の雑用に追われいつの間にか惰性で生きているようになってしまう。あゝ去年の今頃もこんなことをしていたなあ！。

これでいいのだと自分にいい聞かせてしまいます。

私は商売をやっていますが今の時代は情報過多ぎみで、私の方よりもお客様の方が、商品知識をよく知っている場合があります。そんな時はもう少し勉強しておかなくてはいけないとつくづく思う。だから今年は、もう少し時間のゆとりのある生活をして、自分の趣味や体力づくりの時間をつくり、今年は自分に満足できたと思う年にしたいと思う。

以上の様な事を書いたが、はたしてうまくゆくかどうかは努力次第かな！。

私の幼いころと今の子供たち

横越　佐藤弘子

昭和17年生まれ

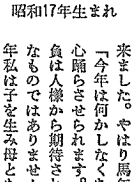
明けましておめでとうございます。今年は馬年です。馬のように飛躍した年にしたいと思います。

生まれてもはや三十数年、物心ついた時から、現在の現実を見ますと、幼い頃の思いでは懐かしくまた楽しかった。あの頃は正月にならなければみかんなど思うように食べられず、友達や又兄妹とみかん釣や、トランプ・カルタ取りや、さまざまな遊びなどをしながら、それなりに楽しいものでした。

今は結婚し13才を頭に三人の子供に恵まれていますが、今の子供は私達の幼少の頃から見ると、時代の変りもありますでしょうが、幸せなような、又不幸な面もあると思います。今の子供は大人になってあの頃は楽しかったと思うでしょうか。私の子供もその一員ですが、世間に習って塾へ通っています。実際それが社会人になって社会、及び自分のためになるでしょうか。たゞ子供のうちから互に勉強の競争心を煽り、それが子供達将来のためになるでしょうか。そんな子供を見ると、どことなくかわいそうでなりません。事実私も勉強やれと言っていますが、なか〳〵しません。やってもらいたいことは山々ですが、しかし勉強だけでなく遊びも良い事と思います。こんな中で勉強と遊びを両立させて、子供達から、大人になってもあの頃は良かったなあと思われるような家庭環境にし、幸わせな家庭を作っていくような年にしたいと思います。

三歩進んで二歩下るの精神で

小杉　中川悦生



昭和17年生まれ

あけましておめでとうございます。今年は「えと」で言うと馬の年、今馬と云えばワラで出来た民芸品の馬や競馬などが思い出される。

大空に向っていなく馬年ではあるが、そうばっかりいなければ年のようでもある。

昨年も暗いニュースが幾多もあった。なかでも悲しいかな「交通事故」「殺人」「不況からの自殺」など数知れない事だけが多かったように思う。又内外的に農業者として喜んで良いのか悲しんで良いのか、過剰米問題を掲げての史上三番目の米の豊作、又昨年発表された新生産調整やら牛肉畜産物の輸入などさまざまな問題が投げかけられている。

昨年今年の。中でも向う十年間政府が行うとしている新生産調整は、日本農業者の最も打撃の大きな問題である。

現段階でも農業離れしている今、世代の後継者になろうとする者は何を考え、何を学んで良いのか暗やみの中に立たされている感じである。がしかしそう悲観ばかりもしておられない。信念を持ち力の気を持って、広い視野で見渡せば創造できる頭がある。未来がある。三歩進んで二歩下るの精神で歩めば、一歩ずつ前に出る。さあ新しい年だ前に向って歩こう。空に向っていな鳴こう。

私の抱負

二本木　大矢紀子

昭和29年生まれ

新年おめでとうございます今年は馬年、私の年がやって来ました。やはり馬年の私は「今年は何かしなくちゃ」と心随らさせられます。私の抱負は人様から期待されるようなものではありませんが、昨年私は子を生み母となり、今では私の一番の幸福に結びつく子を暖かく良い子に育てたい事と、24歳の主婦の私にとってこの変化のない日常生活をあまり現実的に考えないでもっと夢を大いにエンジョイして、今まで型にはまって出来ない事を、本当に勇気を持ってやりたい。

私の人生の区切り

横越　中村久美子

昭和29年生まれ

生まれてから今までが、一つの人生であるとすれば、今が一つの区切りのような気がする。それまでは、高校進学や卒業後の進路が最大の事のように思えたが、それより、これから結婚をするにも、仕事を続けていくにも、それが最大の事となる。

結婚をすれば、それはやはり第二の人生であろうし、もう一つ別の家族を作り上げていかなければならない。

仕事をしていれば、もう先輩格になる。後輩が、自分達